

『第2回復興に向けた地区懇談会』の開催結果について

開催日：平成23年8月24日（水）～9月15日（木）

開催地区：市内13地区

（開催順：日頃市、立根、猪川、綾里、吉浜、末崎、盛、末崎、赤崎、蛸ノ浦、大船渡、大船渡、越喜来）

内 容

東日本大震災からの早期復興と市民参加による復興の推進に向けた大船渡市復興計画の策定にあたり、各地区住民の方々（自由参加）から広く意見、提言等をいただいた。

実施状況

（開催時間：19:00～21:00）

実施日	地区	会 場	参加者数
8月24日(水)	日頃市	日頃市地区コミュニティセンター	68人
8月25日(木)	立 根	立根生活改善センター	63人
8月27日(土)	猪 川	猪川小学校体育館	48人
8月30日(火)	綾 里	綾里地区コミュニティ施設	89人
8月31日(水)	吉 浜	吉浜地区拠点センター	34人
9月1日(木)	末 崎	碁石地区コミュニティセンター	63人
9月4日(日)	盛	カメラアホール	60人
9月6日(火)	末 崎	末崎中学校体育館	186人
9月7日(水)	赤 崎	漁村センター	141人
9月12日(月)	蛸ノ浦	蛸ノ浦小学校体育館	57人
9月13日(火)	大船渡	大船渡北小学校体育館	96人
9月14日(水)	大船渡	大船渡中学校体育館	116人
9月15日(木)	越喜来	甫嶺小学校体育館	75人
合 計			1,096人

対象地域 末 崎 ...中井、西館、泊里、碁石、三十刈、山根

末 崎 ...末崎 以外の末崎地区

大船渡 ...富沢一区、富沢二区、地ノ森一区、地ノ森二区、雇用住宅、赤沢団地、赤沢、上山、中央通、台町、茶屋前、南町、明土、屋敷、県立病院合同公舎、地ノ森住宅、山馬越住宅

大船渡 ...大船渡 以外の大船渡地区

結果概要

3ページより、意見・提言等について、地区ごとに復興計画の柱別に分類して掲載している。

意見・提言のうち、_____が付されているものは、復興計画(案)等に新たに反映した事項。(2ページに反映状況を明示)

復興計画(案)等への反映状況

1 環境未来都市構想・再生可能エネルギー関連

(意見・提言)

- ・ 太陽光パネルなどの再生可能エネルギーに関する取り組みを行う考えはあるか。
- ・ 大船渡市でスマートシティ構想、太陽光発電など、具体的な構想などがないと人口が流出する可能性がある。

「第4章 復興計画事業一覧」に「再生可能エネルギー導入促進事業」を登載(「事業概要」を環境未来都市構想に関する記述に変更)した。

2 北里大学関連

(意見・提言)

- ・ 北里大学生の流出は、人口減少の大きな原因である。人口減は各方面に大きな影響があることから、大学を呼び戻すよう早急な対策が必要ではないか。事業の優先度もアップさせるべき。

「第4章 復興計画事業一覧」における「北里大学海洋生命科学部早期再開促進事業」と「北里大学海洋生命科学部施設利用促進事業」の事業優先度を向上させた。

「第2章 復興における課題、目標及び方針・施策」-「市民生活の復興」-「方針」の施策に「貴重な学術研究機関として、多くの分野で貢献いただいている北里大学海洋生命科学部の三陸キャンパスが、早期に再開されるよう取り組みます。」を加え、対応する事業として、「第4章 復興計画事業一覧」に前記2事業を登載した。

3 子どもの運動場等の確保について

(意見・提言)

- ・ 仮設住宅が建設されていることから、子どもたちが小学校の校庭で運動できない。何か対応策はないのか。

「第4章 復興計画事業一覧」に「森林総合利用施設整備事業」(同施設を球技等にも利用できるように整備)を登載した。

4 土地利用方針の明確化等について

(意見・提言)

- ・ 徒歩と自動車の避難路を分けてはどうか。
- ・ 二線堤より山側の浸水深 2m 以上の区域について建築物の構造を制限するのか。あるいは、浸水深 2m 以上の区域が生じないように二線堤の高さを決定するのか、明確にする必要がある。
- ・ 復興計画の基本的な考え方に、津波への対応についての考え方、海岸保全施設の整備目標、道路のかさ上げ位置と高さを追記してほしい。
- ・ 国・県ではなく、市としてもシミュレーションするなど、資料をたくさんつくって地域住民に説明し、国・県にさらに要望するなどしないと進まないと思う。

復興に向けたまちづくりについては、国・県との連携を密にするとともに、市独自による津波浸水シミュレーションの実施等により、土地利用方針に係る的確な情報を提供・公表しながら、広範な市民参加のもと、鋭意検討している。

1 日頃市地区の結果概要(8/24(水) 於：日頃市地区コミュニティセンター、参加者数：68人)

(1) 市民生活に関する意見・提言

住宅再建、地域コミュニティに関する事項

- ・ 公営住宅について、市内のどこにどのような形で整備するのか。日頃市でも適地があるのではないか。
- ・ 日頃市地区のコミュニティセンターを拡充し、市全体でも使えるような機能を持たせてはどうか。
- ・ 小中学校存続のためにも、復興住宅を整備してほしい。
- ・ 公営住宅の整備を進め、学校や保育園を存続できるようにしたい。
- ・ 県営住宅を整備するよう働きかけてほしい。
- ・ 農地を利用した家庭菜園住宅の整備や子育ての支援機能の充実を。
- ・ 経済交流が盛んになるよう公営住宅を整備するほか、コミュニティ拠点を充実してほしい。

保健・福祉など各種サービスに関する事項

- ・ 遺体捜索などを行った消防団などの心のケアも重要である。

教育施設の再建に関する事項

- ・ 津波に流された小中学校について、日頃市で授業をして少子化が進まないようにしてほしい。

災害廃棄物、歴史、文化の活用 については、特になし。

(2) 産業・経済に関する意見・提言

経済活動の再建、雇用の確保に関する事項

- ・ 離職者支援の事業について、紫波や花巻にある職業訓練機能を大船渡に誘致してはどうか。

農林業の再建に関する事項

- ・ 稲の刈り入れ時期を迎えるが、放射能汚染に関する調査結果を知りたい。

商業の再建に関する事項

- ・ 商店街の位置は盛・大船渡駅周辺でなければいけないのか。

産業基盤の再建、水産業の再建、観光産業の再建、地場産業の活性化 については、特になし。

(3) 都市基盤に関する意見・提言

都市基盤の復旧と防災機能向上に関する事項

- ・ 鷹生ダムについて、水利事業とあわせて地域のインフラ充実を図ってほしい。
- ・ 小松峠を越えて遠野・盛岡とつなぐ道路を整備して地域活性化につなげてほしい。
- ・ 石橋地域は、市の水道が敷設されていない。上水道整備に関する補助を検討してほしい。
- ・ 市内の体育施設がほとんど機能していないので、新たな体育施設を整備してほしい。
- ・ 国道45号について、右折レーンの設置など拡幅は検討できないだろうか。

土地利用に関する事項

- ・ 市街地すべてをかさ上げるような大方針が必要である。

- ・ 内陸の被災家屋は新興住宅に多いようなので、高台移転にあたっては、しっかりした土地造成が必要である。

情報通信基盤 については、特になし。

(4) 防災まちづくりに関する意見・提言

地域コミュニティに関する事項

- ・ コミュニティセンターの機能を強化し、災害時の支援拠点とすべき。水道や水洗トイレの整備とあわせて進めてはどうか。

ライフラインや交通・物流に関する事項

- ・ 太陽光パネルなどの再生可能エネルギーに関する取り組みを行う考えはあるか。

防災体制、 防災教育、 災害時の応援、 サポート については、特になし。

(5) その他

- ・ 環境調査(放射線)をしっかり実施して、安心につなげてほしい。
- ・ 大型加速器(リニアコライダー)誘致について、国や県と一緒に進めてほしい。
- ・ 若者の視点を復興に反映するため、また、防災教育の視点においても、こども復興会議は重要である。
- ・ 夜間に災害が発生した場合の障害となる事項をまとめるとともに、それらがクリアできる計画が策定されているか教えてほしい。



2 立根地区の結果概要（8/25(木) 於：立根生活改善センター、参加者数：63人）

(1) 市民生活に関する意見・提言

住宅再建、地域コミュニティに関する事項

- ・ 農業振興地域と貝塚の指定は解除できるのか。
- ・ 住居の新築を考えている人が多く、土地を求めている人も多い。農地転用を速やかにできるように考えてほしい。

教育施設の再建に関する事項

- ・ 第一中学校体育館の耐震化はすでに決まっていたもので、復興事業に位置づけるのはおかしいのではないか。

保健・福祉など各種サービス、災害廃棄物、歴史、文化の活用 については、特になし。

(2) 産業・経済に関する意見・提言

観光産業の再建に関する事項

- ・ 観光復興のため、子どもたちが地域資源を発信する取り組み（子供観光大使）を検討してほしい。

経済活動の再建、雇用の確保、産業基盤の再建、水産業の再建、農林業の再建、商業の再建、地場産業の活性化 については、特になし。

(3) 都市基盤に関する意見・提言

都市基盤の復旧と防災機能向上に関する事項

- ・ 立根地区の道路について、復旧するだけでなく、新設にあたるものはないのか。
- ・ 国道 45 号の浸水区間を高架にすることや鉄道と防潮堤の復旧、地盤沈下への対応が優先課題と考える。
- ・ 雨が降ると市道の側溝があふれるので、国道の側溝に接続できないか。
- ・ 大船渡から水沢などへの幹線的な道路が必要。
- ・ 水道の整備計画が進んでいないので、整備を促進してほしい。
- ・ 岩手県交通のバス車庫が立根にあるので、立根から各方面へのバスに乗れるようにできないか。
- ・ 自動車による避難路と幹線道路は立体交差にするなどして、徒歩と自動車の避難路を分けてはどうか。
- ・ 今回、水門などは適切に操作できたのか。今後はどうなるのか。
- ・ 大船渡北 IC について、災害時だけでも上下とも乗降可能にしてほしい。
- ・ 立根地区に住みたい人がいるが、水道と下水道が未整備のため決められない。水道、下水道や道路網、側溝などの整備をお願いしたい。

土地利用に関する事項

- ・ 総合公園構想で造成を進めている個所について、今後どのような土地利用を考えているのか。
- ・ 防潮堤の外側の工業団地などで働く人たちが、津波が到達するまでの時間で避難を完了できるのか。

情報通信基盤 については、特になし。

(4) 防災まちづくりに関する意見・提言

防災体制に関する事項

- ・ 飲料水や発電機など、自主防災組織が必要な物資を市から支給してほしい。

防災教育に関する事項

- ・ 防災教育の充実によって、二度と過信によって命が失われないようにしてほしい。

地域コミュニティ、 ライフラインや交通・物流、 災害時の応援、サポート については、特になし。

(5) その他

- ・ 環境対応型の産業育成について、どのような取り組みを考えているのか。
- ・ 復興事業はどのくらいの実施期間を考えているのか。予算やスケジュールなどの詳細な内容は今後公開されるのか。
- ・ 井戸水の放射性物質の測定はどうなるのか。



3 猪川地区の結果概要（8/27(土) 於：猪川小学校体育館、参加者数：48人）

(1) 市民生活に関する意見・提言

住宅再建、地域コミュニティに関する事項

- ・ 第一中学校と猪川小学校は生徒が多いのに、なぜその校庭に仮設住宅を建てるのか。
- ・ 日頃市町の長安寺と板用の間に住宅団地用地を造成し、分譲しては。
- ・ 日頃市町の国道 107 号沿線を農業振興地域から外すだけで、50 世帯程度の宅地造成が可能になるので検討してほしい。

災害廃棄物に関する事項

- ・ 久名畑の一般廃棄物の集積所は、地理的、地形的に妥当ではない。最適地を検討してほしい。

歴史、文化の活用に関する事項

- ・ 文化の面でも、復興に役立つよう力を注いでほしい。
- ・ 猪川町は何で特性を表わし、市の施策の中でどのように取り上げられる地域なのか。文教施設、歴史、そういう面にウェイトを置いた施策を考えてほしい。

保健・福祉など各種サービス、教育施設の再建 については、特になし。

(2) 産業・経済に関する意見・提言

経済活動の再建、雇用の確保に関する事項

- ・ 労働の場がないために県内陸部に出て行ってしまう。子どもたちも、将来猪川にいたいとは思わなくなっているので、人口の減少が心配である。何とか雇用の確保を。

水産業の再建に関する事項

- ・ 水産業関連施設はいつまでに復旧するのか、どのくらいの予算を措置するのか。
- ・ 大船渡は水産と港湾のまちなので、ポートセールスの促進と港湾の早急な整備をお願いしたい。
- ・ 地盤沈下した魚市場から大船渡町の中心部は水産関連、赤崎地区は船舶関連施設の造成で特区化し、大船渡市を三陸沿岸の水産業の中心都市に。

農林業の再建に関する事項

- ・ 農業経営を法人化して異業種と連携し、共同で大型農業を目指すことで、農産物の生産、商品開発、販売が促進され、経費の削減・利益計上が可能となり、農業の安定経営ができるのではないかと。

地場産業の活性化に関する事項

- ・ 赤崎地区に自前の石油生産施設を建造して燃料基地に。生活排水などから石油を生成できる藻(= オーランチオキトリウム) を栽培する工場地帯とし、雇用を生み出してはどうか。

産業基盤の再建、商業の再建、観光産業の再建 については、特になし。

(3) 都市基盤に関する意見・提言

都市基盤の復旧と防災機能向上に関する事項

- ・ 震災後、前田地域の人口も百数十人増え、国道 45 号が非常に混んでいるので、混雑・事故を防ぐ手立てを考えてほしい。

- ・ 盛川の左岸に沿った堤防の道路が混んでいるので、広くしてほしい。
- ・ 堤防や道路の高さがわからないと、企業としてはどうすればよいかわからない。
- ・ 猪川地区では、富岡地区の土地区画整理事業の基本計画が策定されていたが、住宅地区になるのであれば実施すべきである。
- ・ 津波が襲来した場合、赤崎や綾里への連絡・輸送体制がないが、具体的にどうかたちで緊急通行が計画されているのか。
- ・ 新道地域が土砂崩れなどで通行止めになると、盛岡、水沢への交通網が遮断されることも考えられるので、その辺の配慮も必要。

土地利用に関する事項

- ・ 農地転用の申請が多いと聞いているが、用途地域の指定について、特区として申請できるようにしてほしい。
- ・ 被災家屋が、立根や猪川などの高台に全部移るのは不可能ではないか。
- ・ 高台に移転するとなると、国土法、用途地域、山津波、土砂崩壊、農地法などの規制や災害に加え、所有権の問題もある。その辺をどのようにクリアするのかを教えてほしい。
- ・ 蛸ノ浦、大洞、長谷堂、下船渡などの貝塚において、それらを越えて浸水したところはない。貝塚が安定した生活の基盤だからではないか。
- ・ 標高が高くないIC後背地の造成により、居住空間を提供し、三陸鉄道・JRの新駅と駅ビルの建設によって、三陸縦貫自動車道と結合して交通アクセスの利便性を図り、水産業や観光などの振興拠点を形成する。

情報通信基盤 については、特になし。

(4) 防災まちづくりに関する意見・提言

ライフラインや交通・物流に関する事項

- ・ 大船渡市でスマートシティ構想、太陽光発電など、具体的な構想などがないと人口が流出する可能性がある。

防災体制、防災教育、地域コミュニティ、災害時の応援、サポート については、特になし。

(5) その他

- ・ 先日公表された土地利用方針図(案)が、どういう経緯で見直されているのか。
- ・ 太平洋セメント(株)大船渡工場が操業しなくなってしまうと、貴重な労働の場所がなくなる。市が太平洋セメントと一緒に課題を解決しなければならない。
- ・ 市内の市民団体の提言を重視してほしい。
- ・ 国からの補助率は95%ではなく、100%を目指してほしい。
- ・ 将来どのような産業構造にするのか明確に示してほしい。
- ・ 今回の地震においては、避難する車で道路が混雑した。事故の予防、河川付近での浸水被害の危険性を考慮し、浸水が少なく、避難しやすい安全な猪川地区をつくってほしい。
- ・ 津波浸水シミュレーションを実施しているならば公開すべき。
- ・ 都市計画を早く決めなければ、雇用の可能性のある人も従前の住居地に戻れず、外部へ流出してしまう。
- ・ 地区懇談会に青少年や高校生も出席できるように。
- ・ 近年に発生する確率が高い地震による人的影響、土木構造物への影響、経済的影響などについてシミュレーションしてみてもどうか。
- ・ 釜石市の復興計画にデザイナーが関与していたが、美しい模型がつくられ、美しいコンセプトでもあった。大船渡市の計画にも、是非都市計画のデザイナーを関与させたらどうか。



4 綾里地区の結果概要（8/30(火) 於：綾里地区コミュニティ施設、参加者数：89人）

(1) 市民生活に関する意見・提言

住宅再建、地域コミュニティに関する事項

- ・ 家を建てられない人のために、多くの公営住宅を建ててほしい。綾里地区への建設戸数の割り当てが少ないのではないかと。
- ・ 仮設住宅の住居可能期間が短い。約90世帯の70%程度が現在地で復旧してしまうのでは。仮設住宅に入居している間に、高台での住宅整備は終わるのか。
- ・ 住居系土地利用地域に住んでいた人も高台移転できるようにしてほしい。
- ・ 浸水深2m以下が住居系土地利用となっているが、綾里小学校の前は、そのような状況でも全壊した家屋の割合が3割を大きく超えているので見直すべき。

保健・福祉など各種サービス、災害廃棄物、教育施設の再建、歴史、文化の活用 については、特になし。

(2) 産業・経済に関する意見・提言

水産業の再建に関する事項

- ・ 現在、貯木場でかさ上げしているが、満潮時にビットとビットの間や両端から水が入り、乗船することができない。

経済活動の再建、雇用の確保、産業基盤の再建、農林業の再建、商業の再建、観光産業の再建、地場産業の活性化 については、特になし。

(3) 都市基盤に関する意見・提言

都市基盤の復旧と防災機能向上に関する事項

- ・ 津波が発生した場合、内陸部が浸水するので、防潮堤をさらに高くした方がよい。
- ・ 防潮堤が高くないと現地で再建できない。綾里は海岸線が短いため、大きな負担ではないと思うので、20mくらいの高さがほしい。
- ・ 防潮堤の上部を2車線程度の道路にすべきではないか。
- ・ 新しい防潮堤が壊れ、旧防潮堤は壊れていない。確実な建設をお願いしたい。
- ・ 綾里地区には、道路が主要地方道大船渡綾里三陸線1本しかないのもう、もう1路線整備してほしい。災害時には陸の孤島になることがある。赤崎町に抜けられる道路を考えてみてはどうか。
- ・ JR大船渡線の復旧は難しいと思うが、1つの案として、岩手開発鉄道の線路を利用して遠野に抜ける旅客鉄道を整備してはどうか。
- ・ 埋立・かさ上げする土はどこから運んでくるのか。
- ・ 綾里地区が陸の孤島にならないよう、また、復興工事を迅速に進めるためにも、小石浜トンネルを見直し、綾里トンネルの実現・実行を早急をお願いしたい。
- ・ 沖の防波堤はシケに対応し、防潮堤は津波に対応するように考え、さらに第二防潮堤で津波を止めるように設計してほしい。また、第二防潮堤は土提づくりでその上を道路にし、道路より山側を住宅地として利用すればよい。

土地利用、情報通信基盤 については、特になし。

(4) 防災まちづくりに関する意見・提言

特になし。

(5) その他

- ・ 綾里地区では、復興推進委員会を設置して協議・検討しており、近日中に提言書を提出する予定である。復興計画に提言書の内容が盛り込まれるのか。
- ・ 復興計画の策定・推進にあたり、国・県や地権者との協議がスムーズに進むものなのか。



5 吉浜地区の結果概要（8/31(水) 於：吉浜地区拠点センター、参加者数：34人）

(1) 市民生活に関する意見・提言

住宅再建、地域コミュニティに関する事項

- ・ 吉浜地区には三陸縦貫自動車道も通るので、公営住宅も整備してほしい。
- ・ 陸前高田市との境界付近に2市で協力して大規模な宅地造成、ニュータウン構想を考えてはどうか。

教育施設の再建に関する事項

- ・ 被災した学校の復旧位置・場所について、単に住民の意見を取り入れるのではなく、津波に遭わないことを大前提に、市でしっかり考えてほしい。
- ・ 市役所三陸支所の復旧にあたり、図書館や公民館と一緒に整備するように計画してはどうか。
- ・ 吉浜小学校の通学路(大野・中通)で、漁協前までの1kmの道が狭く、崩れた箇所もある。これまでどおりバスを利用できないか。高齢者のドライバーも増えて危険である。
- ・ 吉浜こども園の庭を芝生にしたい。資金の工面、管理を保護者、地域に任せてほしい。

保健・福祉など各種サービス、災害廃棄物、歴史、文化の活用 については、特になし。

(2) 産業・経済に関する意見・提言

経済活動の再建、雇用の確保に関する事項

- ・ 復旧工事において、仕事を失った人が働ける手立てをお願いしたい。

水産業の再建に関する事項

- ・ アワビの里復旧事業は2年間で完了するのか。アワビは毎年放流しなければ継続した生産ができないので、毎年続けていけるようにしてほしい。
- ・ 地震によって地盤が沈下し、どの漁港も岸壁などがかなり低くなっている。早急に復旧工事を実施してほしい。

観光産業の再建に関する事項

- ・ 復興計画に、吉浜のシンボルである白い砂浜と松林の再生を載せてほしい。

産業基盤の再建、農林業の再建、商業の再建、地場産業の活性化 については、特になし。

(3) 都市基盤に関する意見・提言

都市基盤の復旧と防災機能向上に関する事項

- ・ 根白から鋤台に抜ける市道鋤台線で、一部緊急車両が通れない狭い箇所がある。鋤台線についても整備してほしい。
- ・ 県道吉浜荒川線の根白地域内で崩落している箇所がある。通学路であり、危険なので早めの整備をお願いしたい。
- ・ 吉浜漁港までの仮設道路があるが、凹凸がある。今後の整備の見通しを教えてください。
- ・ 県道の改良工事を陳情してきたが、一向に改良されておらず、大型車がすれ違いできない。県道沿いに防波堤も兼ねた農道を整備してほしい。
- ・ 扇洞から根白にかけての旧道を生かし、ビーチサイドラインをつくると、磯への土砂の崩落を防ぎ、海を守ることになるほか、根白漁港に通うのにも便利になる。吉浜海岸へ連絡できると、観光面でも活用できる。

- ・ 高齢者が多いので、安価に利用できる生活の足を確保してほしい。
- ・ バスの便数が少なく、病院・買物に行けないので、必要な時間帯に便数を確保してほしい。

土地利用、 情報通信基盤 については、特になし。

(4) 防災まちづくりに関する意見・提言

防災体制に関する事項

- ・ 防災行政無線について、避難の呼びかけがあまりなかったのでは。早く呼びかけていれば、もっと早く避難できたのではないか。
- ・ 津波以外の災害もあるので、旧大船渡市地域にも防災情報を伝える戸別受信機を導入したほうがよい。
- ・ 防災行政無線のバッテリーの点検などもしっかり行ってほしい。
- ・ 震災時において、防災行政無線のサイレンが最初は鳴っていたが、途中から鳴らなくなった。何らかの対策をしてほしい。
- ・ 夜の津波襲来に備え、ソーラー街灯の設置を検討してほしい。

防災教育、 地域コミュニティ、 ライフラインや交通・物流、 災害時の応援、サポート については、特になし。

(5) その他

- ・ 防災行政無線から流れる朝・夕の音楽を大船渡市民歌にしてはどうか。
- ・ 月命日（毎月 11 日）に哀悼の意を表して黙祷したいので、サイレンを鳴らしてほしい。
- ・ 義援金の配布について、工場や加工場などを失くされた方への配分も検討してほしい。
- ・ 復興計画策定委員会専門部会に県立大の先生が参加しているが、現場を勉強していないのではと感じた。その場での意見がどのように反映されたのか、また、県立大参画の効果を確認したい。
- ・ 放射能の測定器具・機能を揃え、市として海藻類、貝類、魚類についても調査し、安心・安全な水産物を消費者に届けるという姿勢を示すことが、生産地としての努めだと思う。
- ・ 車で避難しようとした方々が多かったと思う。車で逃げたら、車に乗ったら助かる思いを実現できる車の構造を検討しては。



6 末崎地区の結果概要(9/1(木) 於：碁石地区コミュニティセンター、参加者数：63人)

(1) 市民生活に関する意見・提言

住宅再建、地域コミュニティに関する事項

- ・ 津波で人が亡くならない、住居が流されないことを基本にした、地域コミュニティを保ちながらの高台移転が必要である。
- ・ 居住可能な浸水深を2mとしているが、流速などによっても違って来る。漁港地域ごとに検討してほしい。
- ・ 浸水深2mまでのところは住居立地可能というのは、間違った考え方だと思う。
- ・ 浸水するところでは、老人や体の不自由な人をサポートできない。集落の高台集団移転を強く要望する。
- ・ 個人・独力で住宅を借りている被災者には支援がない。実態を把握して目を向けてほしい。
- ・ 住宅用地として土地を貸してもよいと考えているが、個人ではなく市に対して貸したい。そうすれば、移転する方々も格安に住宅再建ができるのではないかと。

保健・福祉など各種サービス、災害廃棄物、教育施設の再建、歴史、文化の活用 については、特になし。

(2) 産業・経済に関する意見・提言

水産業の再建に関する事項

- ・ 碁石地区内3カ所の漁港が地盤沈下で利用できない。かさ上げを早急を実施してほしい。

経済活動の再建、雇用の確保、産業基盤の再建、農林業の再建、商業の再建、観光産業の再建、地場産業の活性化 については、特になし。

(3) 都市基盤に関する意見・提言

都市基盤の復旧と防災機能向上に関する事項

- ・ 門之浜地域の山の方に道路を通してほしい。集団移転が実現した場合には重要な生活道路となり、観光道路にもなりうる。
- ・ 三十刈地域の市道付近の河川にフタをかけてほしい。
- ・ 震災時に門之浜地域が孤立して車の往来ができなくなった。孤立しないよう道路を整備してほしい。
- ・ 避難路を整備してほしいという話があるが、用地交渉が難しい。住民側からも積極的に用地提供すべきである。

土地利用、情報通信基盤 については、特になし。

(4) 防災まちづくりに関する意見・提言

防災教育に関する事項

- ・ 津波の記録が残るモニュメントをつくってほしい。

地域コミュニティに関する事項

- ・ 横のつながりを保つよう、地域の方々が集う憩いの場を設けたいので、支援してほしい。

防災体制、 ライフラインや交通・物流、 災害時の応援、サポート については、特になし。

(5) その他

- ・ 関係地域公民館長などで構成する復興推進のための協議会で話し合ってきた。地域全体の総意として、高台への集団移転、防災道路の整備、道路の防潮堤機能確保、漁港の早期復旧を要望する。
- ・ 事業実施などを決定する過程に住民を参加させてほしい。集落の規模にかかわらず、住民が納得するかたちで事業計画を策定してほしい。
- ・ 想定外のことまで考えるべき。具体的には、被害があった区域に浸水の深さを設定するのではなく、その区域よりさらに 1mくらい標高の高い区域まで居住禁止にする、道路や鉄道などについては今回浸水したところを避けて通すなど、想定を超えて決めてほしい。



7 盛地区の結果概要(9/4(日) 於: カメラホール、参加者数: 60人)

(1) 市民生活に関する意見・提言

住宅再建、地域コミュニティに関する事項

- ・ 住宅移転候補地に、文化財ではあるが、貝塚のあるところを考えてみてはどうか。
- ・ 立根地区において、今後、無計画な開発が続くのではないかと懸念している。都市計画上の位置づけを持たせて開発を考えてはどうか。
- ・ 田茂山地域ではコミュニティがバラバラになり、誰がどこに住んでいるのかわからなくなってしまった。仮設住宅居住者の承諾を得て、地域公民館長などに住所情報などを提供してはどうか。

災害廃棄物に関する事項

- ・ ガレキ撤去が遅れていると聞いているが、復興事業が想定どおりに進むのか疑問に感じている。

保健・福祉など各種サービス、教育施設の再建、歴史、文化の活用 については、特になし。

(2) 産業・経済に関する意見・提言

経済活動の再建、雇用の確保に関する事項

- ・ 住宅建設などで市産材を使用した場合に補助金を拠出してはどうか。雇用拡大などの効果が見込めると思う。

地場産業の活性化に関する事項

- ・ 北里大学生の流出は、人口減少の大きな原因である。人口減は各方面に大きな影響があることから、大学を呼び戻すよう早急な対策が必要ではないか。事業の優先度もアップさせるべき。

産業基盤の再建、水産業の再建、農林業の再建、商業の再建、観光産業の再建 については、特になし。

(3) 都市基盤に関する意見・提言

都市基盤の復旧と防災機能向上に関する事項

- ・ 防潮堤については、ビルと一体的な構造としてはどうか。
- ・ 山側と標高の低い地区を結ぶ横断的な避難ルートが必要である。国道45号は横断施設が不足しているなどの問題があるので、改良をお願いしたい。
- ・ 湾口防波堤の整備により、湾内水質が悪化した。こうしたことに対応できるような構造を要望してみてもどうか。
- ・ 権現堂橋～川口橋までの盛川沿いの道路をかさ上げするなど、遡上する津波を防止する対策を講じてほしい。
- ・ 歩行での避難路について、田茂山地域は県立大船渡病院、またはリアスホールに向かうルート、桜場地域は市役所下の歩道橋があるが、それ以北の地域はルートがない。2カ所くらいのルート増を願う。
- ・ 自動車による避難について、国道45号(バイパス)については、停電用信号機の設置を県に要望することも1つの方策ではないか。

土地利用、情報通信基盤 については、特になし。

(4) 防災まちづくりに関する意見・提言

特になし。

(5) その他

- ・ 集団移転など具体的な事業については、行政区程度の単位で話し合いが必要ではないか。
- ・ 復興計画の事業はいつ完了するのか。国や県の動きを待っていては進まないのではないか。計画倒れになるのではないかと懸念している。



8 末崎地区の結果概要(9/6(火)於:末崎中学校体育館、参加者数:186人)

(1) 市民生活に関する意見・提言

住宅再建、地域コミュニティに関する事項

- ・ 津波危険区域において、土地は買い上げてもらえるのか。
- ・ 集団移転は10戸以上が要件となっているが、もっと少ない単位での移転はできないのか。
- ・ 合併処理浄化槽設置補助金について、今後、住宅需要が増えた場合に補助率は増やされるのか。
- ・ 大田公園付近に、10階以上のマンションなどの建設は考えられないか。

災害廃棄物に関する事項

- ・ 敷地内に漂流物が残っているが片付けてもらえるのか。また、希硫酸の缶があったので、家屋などの解体後は点検が必要である。
- ・ 建物基礎以外のところの雑草の整理はどうするのか。解体後の立会いが必要では。

保健・福祉など各種サービス、教育施設の再建、歴史、文化の活用については、特になし。

(2) 産業・経済に関する意見・提言

観光産業の再建に関する事項

- ・ 碇石海岸の観光復興に資する道路整備をお願いしたい。
- ・ 碇石地域に「津波ビジターセンター」などの防災教育施設を建設して災害記録を次世代に伝承するほか、市外からの観光客を呼び込む。

経済活動の再建、雇用の確保、産業基盤の再建、水産業の再建、農林業の再建、商業の再建、地場産業の活性化については、特になし。

(3) 都市基盤に関する意見・提言

都市基盤の復旧と防災機能向上に関する事項

- ・ 防潮堤などの背後地の道路がかさ上げされれば、家を建ててもよいという意見がある。
- ・ 小細浦の防潮堤は、設置場所を造船所寄りにすれば背後地の利用や作業場の確保にとって有効となる。
- ・ 地区内はほとんど都市計画区域であり、道路がないと建物は建てられない。高台移転に際しては、道路整備が必要である。
- ・ 津波の浸水を避けるため、県道碇石海岸線の山側へのルートの変更をお願いしたい。併せてライフラインを整備し、沿道に宅地を造成してはどうか。
- ・ 細浦地内では主要地方道をかさ上げしないようだが、防潮堤整備後も危険地域として残ってしまうのか。高台に道路がないので、災害に対応した道路整備が必要。
- ・ 船河原から平までの主要地方道について、峰岸では地域内を道路が横切ることになるが、住宅が支障になる。林道に近い方にルートを振ってはどうか。平地域は、道路が移設されれば高台移転の候補地になり得る。
- ・ 主要地方道大船渡広田陸前高田線のバイパス計画は、当初は観光目的だったが、碇石海岸に向かう道は狭く、通学路でもあるので、大船渡市街地に近い位置から一体的に整備できないか。
- ・ JR大船渡線の跨線橋の幅が狭い。すれ違いできるような幅を持たせてほしい。
- ・ 細浦地内の海岸通りと中通りは、震災後の地盤沈下により満潮時・大潮になると冠水する。中通りの道路をあと20~30cmかさ上げすれば安心して安全に通行できると思う。早急に視察と手配を。
- ・ 湾口防波堤をつくるのであれば、津波が見えなくなる海岸の防潮堤は必要ない。

土地利用に関する事項

- ・ 高台でも浸水域がある。高台移転候補地を明確にできないか。
- ・ 土地利用方針として複数案を示すべきと考える。
- ・ 低い浸水深でも家屋の流失があるため、建築の制限と構造制限など2段階で規制すべき。
- ・ 二線堤より山側の浸水深 2m 以上の区域について建築物の構造を制限するのか。あるいは、浸水深 2m 以上の区域が生じないように二線堤の高さを決定するのか、明確にする必要がある。
- ・ 土地区画整理事業について、区域の決定時期とどの地域が適切かについて記載してほしい。

情報通信基盤 については、特になし。

(4) 防災まちづくりに関する意見・提言

防災体制に関する事項

- ・ 避難所が浸水し、亡くなった方もいるので、適切な避難の案内・誘導をしてほしい。避難所整備にあたっては孤立を想定し、発電機や備蓄品を準備しておくことが重要である。

防災教育に関する事項

- ・ 大船渡市と陸前高田市が共同して、箱根山山頂に津波のモニュメントをつくってほしい。

地域コミュニティ、ライフラインや交通・物流、災害時の応援、サポート については、特になし。

(5) その他

- ・ 県職員も懇談会に参加してもらったうえで意見を伝えてはどうか。
- ・ 被災者の現在の情報を把握する必要がある。被災者の分布の実態や住宅復旧の意向などの把握が重要である。そうすれば、公営住宅の必要規模や高台移転の必要性が明らかになるのではないか。
- ・ 津波への対策は、避難を原則としたハード・ソフト対策が示されたが、それを土地利用計画に位置づけるべきではないか。
- ・ こども復興会議に、市長が出席してはどうか。
- ・ 学校などのAEDの設置場所は、屋外にしてはどうか。仮設住宅が設置されたこともあり、屋外に設置する重要性が増している。
- ・ 復興計画の基本的な考え方に、津波への対応についての考え方、海岸保全施設の整備目標、道路のかさ上げ位置と高さ、建築基準法第39条(災害危険区域の指定)の条例化の4点を追記してほしい。
- ・ 地区の復興計画や土地利用の検討に活用するため、被災者の実態を調査し、行政区単位で集計すべき。
- ・ 意見や提言について、復興計画への反映状況と検討結果について、年内に公表すべき。



9 赤崎地区の結果概要（9/7(水) 於：漁村センター、参加者数：141人）

(1) 市民生活に関する意見・提言

住宅再建、地域コミュニティに関する事項

- ・ 主要地方道よりも海側が高台移転の対象となっているが、山側も被災している。こうした地域は集団移転の対象となるのか。対象地域が海側だけになると、移転したくてもできない人が生じる。
- ・ 高台移転候補地は、海に近いのではないか。居住地域は海から離すべきではないか。
- ・ 生活が追い詰められないように施策を展開してほしい。主要地方道よりも海側は工業系の地域が広がるようだが、太平洋セメントの立地による公害（騒音や振動、粉塵など）もある。公園のような緩衝地帯を設けてはどうか。
- ・ 高台への集団移転にあたり、市による浸水域の土地の買収ではなく、土地所有者に対して借地料を支払うというかたちがとれないか検討願いたい。

災害廃棄物に関する事項

- ・ 太平洋セメントでガレキを焼却しているが、放射性物質が含まれていないか心配である。赤崎地区でも放射線量などのモニタリング調査を実施すべきと考える。
- ・ ガレキに含まれるアスベストやダイオキシンの飛散対策を実施してほしい。

教育施設の再建に関する事項

- ・ 小中学校の建設委員会委員を決めたようだが、どのような基準で人選したのか。地域間のバランスを欠いているのではないか。
- ・ 子どもの生活・未来を重視し、何よりも小中学校の建設に早い段階で着手してほしい。セシウムなどの測定を赤崎地区でも実施してほしい。また、小中学校に置いてあるガレキはいつまでに撤収するのか。
- ・ 赤崎中学校再建予定地が、土砂災害警戒区域に含まれているのではないか。安全な建設場所を検討すべき。

保健・福祉など各種サービス、歴史、文化の活用 については、特になし。

(2) 産業・経済に関する意見・提言

水産業の再建に関する事項

- ・ 漁港の復旧について、本復旧前に浮き桟橋の設置などで暫定的な機能回復を急いでほしい。

商業の再建に関する事項

- ・ さまざまな地域で仮設店舗ができています。後ノ入地域でも4件まとまれば仮設店舗を建ててくれると聞いているので、是非お願いしたい。

経済活動の再建、雇用の確保、産業基盤の再建、農林業の再建、観光産業の再建、地場産業の活性化 については、特になし。

(3) 都市基盤に関する意見・提言

都市基盤の復旧と防災機能向上に関する事項

- ・ 主要地方道と林道の間に、もう一本道路が必要だと感じている。
- ・ かさ上げ予定の道路に接して住居があるが、現在居住している人たちも移転しなければならないのか。

- ・ 海の近くに道路があるのは危険ではないか。主要な道路を移設してはどうか。
- ・ 幹線道路(主要地方道)を補完・並行する生活道路を整備すべきではないか。林道は不要であり、避難路としても時間がかかる。主要地方道と林道の間に生活道路を整備してほしい。
- ・ 移転候補地への道路は、現道を利用するのであれば拡幅を検討してほしい。
- ・ 防災施設の整備において、なぜ今回の災害規模を想定しないのか。
- ・ 大洞地域では、自分の畑地に家を建てるといふ人が多くいるが、アクセスする道路が狭い。陸前赤崎駅のガード部分の道路拡幅を提案する。高台への避難路や移転候補地へのアクセス道路にもなり得る。

土地利用に関する事項

- ・ なぜ土地利用の境界部分が主要地方道なのか。
- ・ 主要地方道を数メートルかさ上げしても、山側は安全とは言い切れないのでは。危険区域を見直し、防災集団移転促進事業の適用範囲を拡大すべきと思う。生形地域住民の 8 割くらいが高台移転を望んでいる。
- ・ 移転候補地には、公共・公益施設、病院、商店なども建てられるような十分なスペースを確保すべきと思う。

情報通信基盤 については、特になし。

(4) 防災まちづくりに関する意見・提言

特になし。

(5) その他

- ・ 家が流されていない人は義援金がもらえない。被災した漁民の生活実態を把握すべきではないか。
- ・ 市全体のまちづくりの方向性を知りたいので、赤崎地区以外の土地利用方針図(案)も見たい。
- ・ 放射能は子どもに最も影響があるそうだが、親としてはすぐにでもモニタリング調査を実施してほしい。



10 蛸ノ浦地区の結果概要(9/12(月) 於：蛸ノ浦小学校体育館、参加者数：57人)

(1) 市民生活に関する意見・提言

住宅再建、地域コミュニティに関する事項

- ・ 蛸ノ浦貝塚について、発掘調査して一部を開放し、利用させてもらえないか。
- ・ 吉浜地区が実証したように、住宅の高所移転が最も大事。そのためには、リーダーシップと地区の人たちがそれを守り続けるという2点が重要である。
- ・ 公営住宅については2~3年で整備し、住宅の移転事業も5年で進める必要がある。仮設住宅に何年居られるか不安視している人もいる。住居と雇用は車(生活再建)の両輪なので、年次計画を立てて早期着手を。

教育施設の再建に関する事項

- ・ 赤崎小中学校の建設委員会において、蛸ノ浦小学校と赤崎小学校の統合という意見もあったとのこと。こういう問題は、蛸ノ浦地区でも座談会などを開催し、問題が生じないように進めてもらいたい。
- ・ 仮設住宅が建設されていることから、子どもたちが小学校の校庭で運動できない。何か対応策はないのか。フレアイランド尾崎岬や河川敷公園を対応整備するとしても、アクセスはどうするのか。また、学校のカリキュラム上でも工夫を。
- ・ 赤崎町に住んでいても猪川小学校に通う子どもがいる。赤崎町の子どもが減る原因では。バスにより、赤崎町内の学校に送迎してはどうか。

保健・福祉など各種サービス、 災害廃棄物、 歴史、文化の活用 については、特になし。

(2) 産業・経済に関する意見・提言

特になし。

(3) 都市基盤に関する意見・提言

都市基盤の復旧と防災機能向上に関する事項

- ・ 今回の災害においては、主要地方道が寸断された。林道赤崎線が通っているが、通行が大変困難な道路であり、アクセス道路についてもなかったり、あっても隘路だったりする。赤崎町全体を考えれば、主要地方道と林道の間にもう一本道路を通してもらいたい。
- ・ 湾口防波堤の防波効果を検証してほしい。大船渡湾の生態系など、次の世代を考慮して整備の有無を検討してほしい。
- ・ 湾口防波堤に多額の整備費がかかるのであれば、それをつくらずに住居をすべて高台移転とした方がよいのでは。
- ・ 千年に1回の津波はやむを得ないが、少なくとも明治三陸津波規模の高さに耐えるよう、丘の方にも防潮堤を整備してほしい。

土地利用、 情報通信基盤 については、特になし。

(4) 防災まちづくりに関する意見・提言

防災教育に関する事項

- ・ 湾口防波堤をつくると、逆にあてにされて被害が大きくなる可能性がある。市民に対し、津波についての教育を実施すべき。

防災体制、地域コミュニティ、ライフラインや交通・物流、災害時の応援、サポート については、特になし。

(5) その他

- ・ 市で検討した案を押しつけることのないようお願いしたい。
- ・ 国の第3次補正予算において要望が通らなかった場合、あきらめることになる(事業がある)のか。



11 大船渡地区 の結果概要 (9/13(火) 於：大船渡北小学校体育館、参加者数：96人)

(1) 市民生活に関する意見・提言

住宅再建、地域コミュニティに関する事項

- ・ 大船渡市は急傾斜地が多く、最近では異常気象も多くなっている。住居を高台に移転した際の危険性についても考えてほしい。
- ・ 公営住宅への入居を希望する高齢者が多くなると思う。高台に移転となると、買物や通院が大変。多機能ビルを整備して1階を病院、商店、2階以上を公営住宅とすると、高齢者が車を運転することなく通院、買物ができる。仮店舗を設置している人たちと話し合っ、そのような新しいまちづくりを。
- ・ 仮設住宅への援助、物資及びボランティアが少なく、金銭的にも苦しいのでもっとサポートしてほしい。また、これからの季節の厳しい寒さに対して不安を抱いている。

教育施設の再建に関する事項

- ・ 大船渡北小学校と大船渡小学校の1年生は、2つの学校で50人しかいない。例えば、大船渡北小学校に統合し、大船渡小学校の敷地を高層住宅用地にするということもあるのでは。

保健・福祉など各種サービス、災害廃棄物、歴史、文化の活用 については、特になし。

(2) 産業・経済に関する意見・提言

観光産業の再建に関する事項

- ・ ボランティアが遠野市に宿泊している。地域の活性化、復興のためにも市内に早急に宿泊施設を増やし、宿泊者の誘導を図ってほしい。

経済活動の再建、雇用の確保、産業基盤の再建、水産業の再建、農林業の再建、商業の再建、地場産業の活性化 については、特になし。

(3) 都市基盤に関する意見・提言

都市基盤の復旧と防災機能向上に関する事項

- ・ 道路のかさ上げについて、県道と市道で段差が生じないよう県と市で連携を。また、かさ上げの高さを早急に決めてほしい。
- ・ 近くの市道で道路が隆起し、石垣が崩落している。早急に補修を。
- ・ 湾口防波堤については、湾内の不栄養化や事業費が問題。防波堤を整備する予算があれば、まずは高台の安全な場所に住宅用地をつくり、防波堤はその後に整備すればよいのでは。
- ・ 大船渡駅周辺の東西方向へ通行ができず、避難に苦労したので、対応を検討してほしい。
- ・ 道路をかさ上げすると商業地がくぼ地になり、往来できなくなるのでは。
- ・ 津波をよく研究し、専門機関に協議したうえでどう対応すればよいのか考案すべき。例えば、津波が襲来したら水を地下に入れられる構造にしたり、大船渡湾から違う方向に水を逃がしたりすることを考えてはどうか。
- ・ 県道と鉄道を一緒にかさ上げしてはどうか。
- ・ 防潮堤や道路を高くすることでのマイナス面と、その対応まで提示してほしい。
- ・ 津波浸水シミュレーションについて、海水だけの場合、ガレキ混じりの場合や堤防型の止水、パイプ打ち型式でのガレキ止めの場合の家屋被災予想など、多ケースで被災を予想のうえ判断してほしい。

土地利用に関する事項

- ・ 大船渡駅周辺について、駅を中心に高層ビルを整備し、1階は鉄道、2階はショッピングモール、その上階は住宅、公共施設などの複合施設にする。これは防災ビルにもなる。駅前から観光船なども発着するように整備する。復興のためには、再開発が必要である。
- ・ 浸水区域における住宅の建築は、個々の判断でできるのか。
- ・ 大船渡市と陸前高田市では、浸水深2mのエリアや高台までの近さ(距離)が大きく違う。垂直方向だけでなく、水平方向も踏まえて居住可能な区域を考えてほしい。
- ・ 自分の土地にいつ頃戻れるのか、家をいつ頃建てられるのかが最も気になる場所。土地利用計画の策定はいつ頃になるのか。

情報通信基盤 については、特になし。

(4) 防災まちづくりに関する意見・提言

防災体制に関する事項

- ・ 防災行政無線による津波警報は、「ピンポンパーン」ということではなくサイレンとし、さらに湾口にライブカメラを設置して実情に合う状況で情報発信してほしい。

防災教育に関する事項

- ・ 避難訓練、波高の標示やプレートの設置が、「チリ地震津波」によるものだったが、明治29年や昭和8年の三陸津波を参考にすべきではなかったか。

地域コミュニティ、ライフラインや交通・物流、災害時の応援、サポート については、特になし。

(5) その他

- ・ 多事業費の国待ちの事業は、実施が決定しても完成まで年数がかかってしまうのでは。浸水域の建築制限など、今の時点で決められることは決めてほしい。2m以上浸水した場所でも住みたいという方も多い。
- ・ ガレキ撤去に際して、境石までなくなっているのを確認してほしい。
- ・ 結論を出したうえでの説明会で終わらないように。また、もう少し小さい地域での議論を。
- ・ 国・県ではなく、市としてもシミュレーションするなど、資料をたくさんつくって地域住民に説明し、国・県にさらに要望するなどしないと進まないと思う。



12 大船渡地区 の結果概要 (9/14(水) 於：大船渡中学校体育館、参加者数：116人)

(1) 市民生活に関する意見・提言

住宅再建、地域コミュニティに関する事項

- ・ 貝塚について、地域の合意が得られれば、住宅地として整備することができるのではないかと。それができないのであれば、国の文化財指定を外すべき。
- ・ 高台の民有地は、市が買い上げる必要がある。
- ・ 住居の高台への移転時において、新旧居住地の等価交換ができるのか。高台に住宅地を造成して、現在の土地(居住地)と交換するのが現実的ではないか。

保健・福祉など各種サービスに関する事項

- ・ 老人センターの再建はどうなっているのか。

教育施設の再建に関する事項

- ・ 大船渡小学校では、他地区から通学している児童が増え、放課後児童クラブの重要性が高まっている。独自にアンケート調査した結果、新たに40人の児童が参加を希望しており、来年4月の開設を目標としている。施設として小学校の高台にプレハブ設置を要望した際、既存空き教室を使うよう回答があったが、1階は浸水して使用できないため、空き教室がない。対応をお願いしたい。

災害廃棄物、歴史、文化の活用 については、特になし。

(2) 産業・経済に関する意見・提言

特になし。

(3) 都市基盤に関する意見・提言

都市基盤の復旧と防災機能向上に関する事項

- ・ かさ上げする道路は、現行の道路を基準とせず、区画整理をして道路幅を広げる必要がある。
- ・ 破壊された末崎地区の防潮堤には鉄筋が入っていないようだった。津波が襲来しても防潮堤が流されないよう、鉄筋を入れた構造にしてほしい。
- ・ 大船渡駅周辺は、震災時に鉄道敷を横断することが困難であったことから踏切化してほしい。
- ・ 人が死なないまちづくりを考える必要がある。高い防潮堤のふもとで暮らすのか。なぜ今回の津波ではなく明治三陸津波を基準にするのか。浸水は完全に防ぐべきではないか。
- ・ 自分の家が海拔何メートルにあるのかわかるよう、海に面した場所に海拔がわかる標示を建ててほしい。
- ・ 湾内汚濁や養殖物の育ちが悪いことなどから、湾口防波堤の撤去(マウンドも含む)を要望する。地域の生業の復興には、当事者(漁協・漁民)の意見を反映した復興計画を策定するよう切に願う。湾口防波堤に代わって、陸上側に防波・防潮堤を整備することを提案する。
- ・ 津波浸水シミュレーションはあくまで仮説であり、効果がそのとおりになるわけではない。

土地利用に関する事項

- ・ 居住可能な区域が浸水深2mということだが、どの程度までの範囲となるのか。
- ・ 現在のまちの中心は、ショッピングモールに移ってきており、駅を中心にしたまちづくりではないのではないか。駅の位置は既存のままでなく、高台に移すべきではないか。

情報通信基盤 については、特になし。

(4) 防災まちづくりに関する意見・提言

防災体制に関する事項

- ・ 今後、高齢化が進む中で、津波が襲来したときに逃げることができるよう、それらを踏まえて検討してほしい。

防災教育に関する事項

- ・ 今回の浸水実態を明らかにしたうえで浸水マップを作成してほしい。

地域コミュニティ、 ライフラインや交通・物流、 災害時の応援、サポート については、特になし。

(5) その他

- ・ 国のニュアンスを感じながら復興に取り組むのではなく、市としての意見、地元の意見をまとめて国を動かすべきである。
- ・ 復興計画事業一覧について、例えばソフト事業がどういう事業であるのか、ハード事業が何であるのか識別できる方が見やすい。
- ・ 大船渡市のグランドデザインが一目でわかるものがあれば、提示してほしい。
- ・ 浸水マップがあるのであれば、それが市民にわかるよう資料を作成してほしい。そのような細かい配慮を望む。
- ・ 復興計画案はハード面だけであり、ソフト面、雇用対策がなければ、だれもが住みたいまちにはならない。
- ・ 復興計画案を公表してから地区ごとの説明会を開催するのは、順番が違うのではないか。
- ・ 市独自に計画を策定するのではなく、大手ディベロッパーに丸投げした方がよいのではないか。



13 越喜来地区の結果概要 (9/15(木) 於：甫嶺小学校体育館、参加者数：75人)

(1) 市民生活に関する意見・提言

住宅再建、地域コミュニティに関する事項

- ・ 浸水深2m前後の宅地にも農地にもできない土地は、買い上げてほしい。
- ・ 提出した提言書における高台移転候補地は、地区においてコミュニケーションをとって決めたものなので、提言・要望を大切にしたいうえで、移転に難しい問題があるのかどうか検討してほしい。
- ・ 高台への移転について、越喜来地区はリアス式の典型的な地形であり、希望する高台は傾斜地が多い。場所によっては5戸未満となる場合もある。いくら離れてもよいので、集落ごとに移転したい。
- ・ 浦浜地域南部の移転候補地が、土地利用方針図(案)から消されているが、これを盛り込んでほしい。
- ・ 三陸公民館はそのまま残すのか、壊してしまうのか、明示してほしい。

教育施設の再建に関する事項

- ・ 越喜来小学校が壊れたままだが、どのような処理を行う予定であるのか。
- ・ 越喜来小学校の校門が流されたが、是非、将来のために保存してほしい。
- ・ 甫嶺小学校の下まで津波が到達したことから、地域としては、甫嶺小学校を避難所としては考えられない。その場所に子どもを預けているのは不安である。
- ・ 甫嶺小学校の屋外の照明が暗すぎる。子どものために何とかしてほしい。
- ・ 震災後、市の配慮により保育園活動が実施できているが、粉塵が飛んでくるなど、まだ対策が不足している部分がある。
- ・ 小学校に近いところに保育園を整備してほしいという保護者会での意見がある。できるだけ早期に、安全な保育園の建設をお願いしたい。

保健・福祉など各種サービス、災害廃棄物、歴史、文化の活用 については、特になし。

(2) 産業・経済に関する意見・提言

水産業の再建に関する事項

- ・ 漁港の復旧として、県がかさ上げを進めているようであるが、越喜来全体としても漁港の復旧が最も急がれるべきである。

農林業の再建に関する事項

- ・ 沖田水路が埋没してしまった。幹線水路だが、水が流れていない。防火水路を兼ねているため、改修をお願いしたい。

地場産業の活性化に関する事項

- ・ 復興計画事業一覧に北里大学の呼び戻しについて記載してあるが、具体的な方策を教えてください。

経済活動の再建、雇用の確保、産業基盤の再建、商業の再建、観光産業の再建 については、特になし。

(3) 都市基盤に関する意見・提言

都市基盤の復旧と防災機能向上に関する事項

- ・ 明治三陸津波ではなく、今回の津波を参考に防災計画を策定すべきではないか。
- ・ まちの中が暗いので、街灯を増やすことを検討してほしい。

- ・ 鬼沢から越喜来に抜ける主要地方道は、復興後も同じ位置になるのか。幅員が狭いという認識はあるのか。小石浜トンネルの出入口を活用すれば、快適な道路になるのでは。迂回路ももう少し検討してほしい。
- ・ 津波によって防潮堤が壊れることは、土木専門家としては常識であるということを知った。今回整備する防潮堤が3.11対応になっていないというが、自然現象は想像を超えたものになるのではないかと。主要地方道のかさ上げは、非現実的と思う。
- ・ 事業計画案に離岸堤の整備がない。ぜひ、盛り込んでほしい。
- ・ 浦浜川に生き残ったアユを保全できるよう、河川の保全を考えてほしい。
- ・ 浦浜に砂浜ができたが、仮防潮堤で埋めてしまうのは惜しいので残してほしい。美しい砂浜があると心が和み、漁業にも有益。またいつか、子どもたちが砂浜で遊べるようにしてほしい。
- ・ 大船渡湾の湾口防波堤は、水質悪化を防ぐとともに、湾内にヘドロや放射性物質が堆積しないよう配慮してほしい。

土地利用に関する事項

- ・ 今回の津波で海岸線が変わっているが、土地利用方針図(案)では元の海岸線のままになっている。現状の海岸線が境界になるのでは。浦浜海岸に砂浜ができるのはよいと思う。ここで暮らしていく中で、自然とのかかわりも大事だと考える。

情報通信基盤 については、特になし。

(4) 防災まちづくりに関する意見・提言

防災体制に関する事項

- ・ 防災マニュアルについては、落ち着いた時にゆっくり整理するのがよいのでは。
- ・ 障がい者がどう考えているのかという視点も重要なので、検討してほしい。

防災教育、地域コミュニティ、ライフラインや交通・物流、災害時の応援、サポート については、特になし。

(5) その他

- ・ 大船渡市を復興させるためには、新しい視点による夢の持てる復興計画がほしい。

